

橋本孝先生の略歴と業績

略 歴

- 1934年12月 岡山県新見市に生まれる（16日）
- 1957年 3 月 中央大学法学部卒業
- 1960年 3 月 中央大学文学部独文専攻（学士入学後）
3 年修了
- 1962年 3 月 中央大学大学院文学研究科独文学専攻
修士課程修了文学修士号を取得（シラーの『ワレンシュタイン』について）
- 1962年 4 月 中央大学文学部独文研究室副手（1963年 3 月まで）
- 1963年 3 月 独協学園教諭（独語）（1968年 3 月まで）
- 1965年 3 月 中央大学大学院文学研究科独文学専攻博士課程満期退学
- 1966年 3 月 ドイツ連邦共和国マールブルク大学留学（1968年 1 月まで滞在）
- 1968年 4 月 宇都宮大学講師教養部（独語）（1969年 9 月まで）
- 1969年10月 宇都宮大学助教授教養部（独語）（1978年 4 月まで）
- 1978年 5 月 宇都宮大学教授教養部（独語）（1993年 9 月まで）
- 1980年 4 月 宇都宮大学学生部長（2 期 4 年、1984年 3 月まで）
- 1984年 4 月 宇都宮大学評議員（2 期 4 年、1988年 3 月まで）
- 1992年11月 ヴェルツブルク大学（ドイツ連邦共和国）客員教授（1994年 9 月まで）（日本文学、比較文学担当）
- 1994年10月 宇都宮大学教授国際学部（国際学部新設に伴い配置換え、現在に至る）
- 1998年 8 月 宇都宮大学教授国際学部大学院国際学研究科国際文化研究（修士課程）担当
現在に至る
- 2000年 3 月 宇都宮大学教授国際学部退官予定



海外研究経歴

- 1975年 2 月 文部省在外研究員 ドイツ連邦共和国マールブルク大学（1976年 2 月まで）
- 1980年 8 月 文部省海外派遣により、第 6 回国際ゲルマニスト大会（スイス連邦共和国・バーゼル大学にて）研究発表（同年 9 月まで）
- 1982年 5 月 ドイツ学術交流会（D A A D）研究員としてドイツ連邦共和国フライブルク大学及びマールブルク大学に滞在（同年 7 月まで）

- 1984年10月 文部省短期在外研究員としてアメリカ、ヨーロッパに滞在（マールブルク（ドイツ）、ウィーン（オーストリア）、マドリッド、グラナダ（スペイン）、ニューヨーク、サンフランシスコ（アメリカ）の各大学を歴訪（同年11月まで）
- 1985年 8 月 第7回国際ゲルマニスト大会（ドイツ連邦共和国ゲッティンゲン大学）に招待
- 1987年 7 月 ドイツ連邦共和国カールスルーエ教育大学に滞在（同年9月まで）
- 1988年 7 月 ドイツ学術交流会（DAAD）研究員としてドイツ連邦共和国ミュンスター大学に滞在（同年10月まで）
- 1995年 7 月 ドイツ連邦共和国エアランゲン大学研究滞在（同年8月まで）
- 1996年 7 月 エアランゲン大学研究滞在（同年8月まで）
- 1997年 9 月 ロシア共和国公務員養成大学並びにノヴォシビルスク大学及びモスクワ言語大学に講演及び研究滞在（同年10月まで）
- 1998年 7 月 ドイツ連邦共和国エアランゲン大学研究滞在（同年8月まで）
- 1999年 9 月 ドイツ学術交流会（DAAD）研究員としてエアランゲン大学研究滞在及び第一回日独グリム兄弟シンポジウム（シュタイナウ市）参加（日本側組織委員代表として挨拶並びに全体会議の基調講演及び分科会司会）（同年10月まで）

学会及び社会活動

- 1965年 4 月 日本独文学会会員（現在に至る）
- 1987年 5 月 日本独文学会理事（2期4年、1991年4月まで）
- 1975年 4 月 国際グリーンメルスハウゼン学会会員（現在に至る）
- 1980年 4 月 国際ゲルマニスト会議会員（現在に至る）
- 1989年 5 月 日本グリム協会理事長（現在に至る）
- 1989年 7 月 財団法人現代演劇協会評議員（現在に至る）
- 1996年 4 月 財団法人グリムの里評議員（現在に至る）
- 1997年11月 財団法人ドイツ・グリム兄弟協会名誉会員（現在に至る）
- 1998年10月 日本ゲーテ協会会員（現在に至る）

研究業績

（著 書）

1. グリム兄弟とその時代 単著 パロル舎、東京 2000年3月

2. Kreativität und Nachahmung in der japanischen Literatur 共著（独文）„Japan-Deutschland Wechselbeziehungen“ (II) Springer Verlag, Berlin 1991年11月
3. Christentum in der modernen japanischen Literatur 共著（独文）„Japan-Deutschland Wechselbeziehungen“ (III) Springer Verlag, Berlin 1997年4月

（学術論文）

1. シラーにおける自由についての考察 単著 中央大学文学会『中央大学文学会論攻』1号、1959年11月
2. ゲーテの『エグモント』とシラーの『ドン・カルロス』 単著 中央大学文学会『中央大学文学会論攻』2号、1961年2月
3. 転母音について —中高ドイツ語の強変化動詞をめぐって— 単著 中央大学大学院『ヴォーダン』2号、1962年4月
4. ジャン・パウルの夢と幻像と音楽 単著 『私たちの希望』93号特集 平和の世界社、東京 1962年4月
5. ヴェルター像 —試論— 単著 中央大学ドイツ学会『ドイツ文化』2号、1963年9月
6. 『群盗』解釈への一方向づけ 単著 中央大学大学院『ヴォーダン』3号、1963年9月
7. 『ドン・カルロス』試論 単著 独協学園外国語科『マイクロコスモス』1号、1965年12月
8. Ausdrucksformen und Rhythmen in den Frühlingsgedichten bei Goethe（独文）単著 宇都宮大学外国文学会『外国文学』17号、1968年12月
9. F. G. Klopstock の Oden における言語とリズムについて 単著 宇都宮大学教養部『研究報告』1号 第1部 1968年12月（尚、本論文は文体の論文として『英語学論説資料』第3の第4分冊に収録された。1971年10月）
10. Klopstocks Frühlingsfeier（独文）単著 宇都宮大学教養部『研究報告』2号、1969年12月
11. Klopstock の頌歌「チューリッヒ湖」 単著 宇都宮大学外国文学『外国文学』18・19合併号、1970年12月
12. Das Bild der leidenden Menschen - eine Interpretation der Erzählung „Der Jäger Gracchus“ von Franz Kafka（独文）単著 宇都宮大学教養部『研究報告』3号 第1部、1970年12月
13. 「メシアス」における Klopstock の詩の理論 単著 宇都宮大学教養部『研究報告』

4号第1部、1971年12月

14. Klopstock の Dythrambus から Bardenlied への移行について 単著 宇都宮大学外国文学会『外国文学』20号、1971年12月
15. Klopstock 以後 - Göttinger Hain 特に Hölty と Bürger をめぐって 単著 宇都宮大学外国文学会『外国文学』秋沢教授退官記念号、1972年3月
16. 若き日の Klopstock 単著 宇都宮大学教養部『研究報告』5号第1部、1972年12月
17. Über die Eigenschaft und die Grenzen der Ausdrucks-und Versformen Klopstocks (独文) 単著 日本独文学会編『ドイツ文学』記念号 50号、1973年3月
18. Horaz とドイツ頌歌 - Celtis から Klopstock まで 単著 宇都宮大学教養部『研究報告』6号第1部、1973年12月
19. カフカ解釈への試み 単著 宇都宮大学外国文学会『外国文学』22号、1974年2月
20. クロップシュトックの社会的側面 単著 宇都宮大学外国文学会『外国文学』石丸教授退官記念号 23号、1975年2月
21. 時代精神としてのバロック 単著 宇都宮大学教養部『研究報告』9号第1部、1976年12月
22. バロックにおけるサテュリコン 単著 宇都宮大学教養部『研究報告』10号第1部、1977年12月
23. バロック小説 - ピカレスク小説の系譜 - 単著 宇都宮大学外国文学会『外国文学』26号、1978年3月
24. Europäischer Barock und japanische Kultur (独文) 単著 宇都宮大学外国文学会『外国文学』27号、1979年2月 (1976年1月5日から9日まで Gelnhauser Tageblatt 誌 (西独・ゲルンハウゼン市) に5回に渡って連載し、さらに1977年度科学研究費の助成を受けたもの。)
25. Was haben wir Japaner vom deutschen Bildungsroman gelernt? (独文) 単著 Akten des VI. Internationalen Germanisten-Kongresses Basel (IVG) T. 3. Band 8,3, Basel 1980年8月
(尚、この論文は『Der deutsche Bildungsroman』(Sammlung Metzler, 1981) に参考文献として収録された。)
26. Aspekte zur geistigen Haltung des Japaners (独文) 単著 Universitas, Heft 7, Stuttgart 1981年7月

27. Mori Ogai, ein japanischer Schriftsteller in Deutschland (独文) 単著 Zeitschrift „Lion“ Heft 11, 1981年11月
28. Japanischer Geist und japanische Literatur (独文) 単著 Karlsruher Pädagogische Beiträge (カールスルーヘ教育大学紀要) Heft 11, 1983年12月
29. ドイツ教養小説の源流を求めて 単著 宇都宮大学教養部『研究報告』16号第1部、1983年12月
30. 16・17世紀の社会状況と Grimmelshausen の<Simplicissimus> 単著 宇都宮大学教養部『研究報告』17号第1部、1984年12月
31. Schlüssel zum Verständnis der japanischen Kultur (独文) 単著 Zeitschrift „Lion“ Heft 10, 1985年10月
32. ピカレスク小説について 単著 宇都宮大学外国文学会『外国文学』35号 若田部教授退官記念号、1981年12月
33. リルケとバラ 単著 宇都宮大学外国文学会『外国文学』38号、1989年2月
34. Probleme der heutigen japanischen Gesellschaft (独文) 単著 宇都宮大学教養部『研究報告』22号第1部、1989年12月
35. Überlegungen zur Faust-Dichtung in Japan (独文) 単著 Veröffentlichungen des japanisch-deutschen Zentrums Berlin, Bd.15,1993年2月
36. Christentum und Japanische Literatur (独文) 単著 宇都宮大学教養部『研究報告』26号、1993年8月
37. Versuch über das Haiku (独文) 単著 宇都宮大学外国文学会『外国文学』42号、1993年8月
38. カッセルとユグノー ―グリム兄弟への影響― 単著 日本グリム協会編『グリム研究』3号、1994年5月
39. グリム兄弟所縁の地とそのドイツ民話 単著 宇都宮大学教養部『研究報告』28号、1995年9月
40. 大学の町マールブルクとグリム兄弟 単著 日本グリム協会編『グリム研究』4号、1995年5月
41. 「ホレおばさん」伝説について 単著 宇都宮大学外国文学会『外国文学』45号、1996年2月
42. グリム兄弟のその政治的立場 単著 宇都宮大学国際学部『研究論集』創刊号、

1996年3月

43. アイデンティティとナショナリズム ―グリム兄弟の場合― 単著 日本グリム協会編『グリム研究』5号、1997年5月
44. グリム兄弟と比較文化 単著 日本グリム協会編『グリム研究』6号、1997年5月
45. グリム兄弟の日本との関わり 単著 日本グリム協会編『グリム研究』7号、1998年8月
46. グリム兄弟のゲーテへの道 単著 平成1999年12月 日本グリム協会編『グリム研究』8号
47. Grimms Forschung in Japan (独文) Jahrbuch der Brüder Grimm-Gesellschaft (Sonderheft), Kassel 2000年3月
48. グリム兄弟のゲーテと出会い 単著 日本グリム協会編『グリム研究』ゲーテ生誕250年記念シンポジウム特集号、2000年3月
49. ヘッセン選帝候夫人アウグステとグリム兄弟 単著 宇都宮大学外国文学会『外国文学』橋本孝教授退官記念号(49号)、2000年3月

(その他、書評及び研究報告、翻訳)

1. Hof, Staat und Gesellschaft in der Literatur des 17. Jahrhunderts 単著 日本独文学会編『ドイツ文学』春季72号、1984年5月
2. 志賀文学のドイツ訳<Erinnerung an Yamashina>, übersetzt von Frau Rau 単著 日本独文学会編『ドイツ文学』秋季79号「フォーラム」1987年5月
3. „Bitte, Onkel Grimm, schreibt noch mehr Märchen“ (独文) 単著 Jahrbuch der Brüder Grimm-Gesellschaft, hrsg. v. H. Kugler und B. Lauer, Marburg 1992年12月
4. ギュンター・ハーシュ著『ドイツ連邦共和国並びに西ベルリンの学校における芸術教育の意味と任務及びその問題点』単著 栃木県連合教育会『下野教育』609号、1978年6月
5. ギュンター・ハーシュ著『60年代及び70年代におけるドイツ連邦共和国並びに西ベルリンの教育制度改革』単著 栃木県連合教育会『下野教育』611号、1978年11月、612号、1979年1月、613号、1979年3月、614号、1979年5月
6. グリム兄弟の人と業績 単著 信濃町黒姫童話館『童話の森通信』8号、1995年5月
7. グリム兄弟について 単著 絵本グリムの森(1)『ラプンツェル』パロル舎、東京、1996年11月

(口頭発表・講演)

1. Klopstock の詩形と言語表現 第26回独文学会総会 春季研究発表会 都市センター (東京) 1972年 5 月
2. われわれはドイツの Bildungsroman から何を学んだか (ドイツ語で発表) 第 6 回国際ゲルマニスト大会 (IVG大会) バーゼル大学 (スイス) 1980年 8 月
3. ドイツの森鷗外 主催「日本文学を考える」ドイツ連邦共和国・ベンスハイム市ライオンズクラブ (ドイツ語で発表) 1980年 8 月
4. 日本人の比較文化論 日独青少年指導者全国研修会、宇都宮市・青年会館 (ドイツ語及び日本語で発表) 1980年10月
5. 日本人の思想と日本文学 カールスルーエ教育大学及びミュンスター大学主催、カールスルーエ教育大学、1982年 6 月及びミュンスター大学にて (ドイツ語で発表) 1982年 7 月
6. 日本文化理解の鍵 ドイツ・カールスルーエ市ライオンズクラブ主催「日本文化を理解する」カールスルーエ市 (ドイツ語で発表) 1985年 9 月
7. グリム兄弟について 宇都宮市立図書館主催 市立図書館にて 1986年 6 月
8. グリム童話について 宇都宮市立図書館主催 市立図書館にて 1987年 1 月
9. 日本における今日の諸問題 ビーティヒハイム・ビッシンゲン市主催「日本シンポジウム」ビーティヒハイム・ビッシンゲン市にて (ドイツ語で発表) 1988年 9 月
10. 日本文学の模倣性と創造 バーデン・ヴェルッテンベルク文学協会主催 「日本文学シンポジウム」カールスルーエ市、市民ホールにて、1991年 3 月及びベルリン独日協会主催「日本文化研究」ベルリン・日独文化センターにて、1991年 4 月及びフランクフルト大学主催「現代日本文学シンポジウム」フランクフルト大学にて 1991年 6 月 (すべてドイツ語で発表)
11. 俳句について ドイツ俳句協会主催「俳句シンポジウム」ドレーズデン市 (ドイツ語で発表) 1991年 4 月
12. 三島由紀夫について ミュンヘン大学主催「日本文学シンポジウム」ミュンヘン大学にて (ドイツ語で発表) 1991年 7 月
13. Goethes „Faust“ in Japan ベルリン日独センター主催日独ゲーテ・シンポジウム「ゲーテと世界文化」ベルリン市ベルリン日独文化センターにて (ドイツ語で発表) 1991年 7 月
14. キリスト教と日本文学 フランクフルト独日協会主催「日本文化を知る」フランクフ

- ルト市にて、1992年6月及びベルリン独日協会主催「日本文化シンポジウム」ベルリン・
日独文化センターにて、1992年6月（共にドイツ語で発表）
15. 戦後の日本文学 エアランゲン大学主催「日本文学の流れを考える」日本文学・語学
研究所にて（ドイツ語で発表）1992年6月
16. 現在の日本の社会的諸問題 公務員養成大学主催「日本を学ぶ」 ロシア共和国ノボ
シビルスク市公務員養成大学にて、1994年9月
17. 戦後日本文化の歩み ノボシビルスク大学主催「日本文化を学ぶ」 ロシア共和国ノ
ボシビルスク大学にて、1994年9月
18. グリム童話をどう読むか 栃木県小学校校長研修会講演 栃木県総合教育センター
1999年7月
19. 日本におけるグリム研究（基調講演）ヘッセン州・シュタイナウ市、ドイツ・グリム
協会、DAAD主催「第一回日独グリム兄弟シンポジウム」（ドイツ語で発表）。尚、分
科会の司会を務める。1999年9月
20. グリム兄弟のゲーテへの道 ―その出会いをめぐる―（研究発表）日本ゲーテ協会・
日本グリム協会共催ゲーテ生誕250周年記念「ゲーテとグリム兄弟シンポジウム」早稲
田大学国際会館にて、1999年11月

（ドイツ語教科書編著）

- | | |
|---|-------------|
| 1. 横山民次共編著「Intensivdeutsch」 | 南江堂 1962年4月 |
| 2. D. シャウヴェッカー共編著「ドイツ語文法読本」 | 三修社 1979年4月 |
| 3. 近藤弘・小林ゲャリンデ共編著「言ってみよう、話してみよう」 | 三修社 1983年4月 |
| 4. R. ライヒェルト共編著「おもいきりドイツ語」 | 白水社 1994年2月 |
| 5. 近藤弘・アレキサンドラ・シュヴァルツ共編著「いきいきとドイツ語」 | 白水社 1997年2月 |
| 6. 近藤弘・小林ゲャリンデ共編著「新・言ってみよう、話してみよう」全面改訂版 | 三修社 2000年2月 |
| 7. 近藤弘・イリア・ベルク共編著「わかるドイツ文法」 | 白水社 2000年2月 |
| 8. 中級読本 「環境問題」(H. ヒレンブラント著) 注解 | 三修社 1988年2月 |
| 9. 中級読本 「ドイツ統一の諸問題」(H. ヒレンブラント著) 注解 | 三修社 1991年2月 |